

# かみきた楽農通信

第63号  
令和6年1月18日発行

上北地域県民局 地域農林水産部

○ 農業普及振興室  
青森県十和田市西十二番町20-12  
TEL: 0176-23-4281

○ 農業普及振興室三沢分室  
青森県三沢市東岡三沢1-1-7  
TEL: 0176-53-2498



ホームページアドレス



上北農業普及振興室

で検索



## 令和5年度「全国優良経営体表彰」販売革新部門

### 全国担い手育成総合支援協議会会長賞受賞

～おとべ農産合同会社（代表社員乙部 英夫氏 東北町）～

おとべ ひでお

農林水産省等では、意欲と能力のある農業者の一層の経営発展を図るため、農業経営の改善や地域農業の振興に優れた功績を挙げた農業者を表彰しています。この度、東北町のおとべ農産合同会社が全国担い手育成総合支援協議会会長賞を受賞しました。

おとべ農産合同会社は、ながいも栽培を経営の主力におき、計画的な輪作体系を確立して連作障害を防ぐとともに、化成肥料をなるべく施用せずに地力の維持を図っています。また、流通業者や農協と連携し、積極的な生産技術支援や販路拡大を図り、「ネバリスター」のブランド化や、契約栽培による加工用キャベツの産地化に取り組んでいます。

さらに、スマート農機の導入や労務管理アプリの活用などによる徹底した生産・販売管理を進めるなど、販売の多角化や農業経営の合理化などにより農業経営を発展させたことが高く評価されました。



さとし ひでお まさこ  
左：長男（暁氏） 中：本人（英夫氏） 右：妻（政子氏）

## 農作業事故を防ぎましょう！

みんなで声がけ！安全確認！急がず、焦らず、慎重に！

# STOP! 農作業事故

農業普及振興室が把握している、令和5年4月から11月までの8ヶ月間に上北管内で発生した重大な農作業事故は、**死亡が4件、重傷が2件**あり、発生が非常に多くなっています。事故に立ち会った方のほとんどが、「もしあの時〇〇していたら」（例えば、トラクターのエンジンを停止）といった反省を述べています。

各地で発生している農作業事故を「自分事」として考えるとともに、農作業の危険性を、オペレーターはもちろん、一緒に作業をする家族や共同作業者と情報共有し、農作業事故防止に努めましょう。



## 新たな土づくりの匠の紹介

青森県では、高度な土づくりを実践し、地域農業のリーダーとして健康な土づくりの指導的な役割を担う生産者等を、「あおり土づくりの匠」として認定しており、令和5年度は上北管内では相坂英輝さんが認定されました。

本年度の認定も合わせ、管内の認定者は28名となりました。



あいさか ひでき

### 相坂 英輝 氏（おいらせ町）

①栽培品目

キャベツ、だいこん

②土づくり実施内容

土壌診断結果に基づく適正施肥と地元産の鶏ふん堆肥の活用により、化学肥料の削減とキャベツの高品質安定生産を実現。

十和田おいらせ農協ももいし支店野菜振興会役員として地域農業者に土づくりの重要性を呼びかけています。

## 農業普及振興室・新採用職員の活動

ふじやま わかば

### 勉強の毎日 経営・担い手班：藤山 若葉

私は経営・担い手班で主に4Hクラブの活動支援、認定農業者の経営改善計画申請書の作成支援を行っています。支援を通じて、私自身学ぶことも多く、また関係機関やクラブ員との連携の重要性を痛感する毎日です。学んだことを業務に活かし、日々精進していきたいと思っています。



にしむら こうし

### 頼られる普及員を目指して 作物・畜産班：西村 洸士

私は畜産担当として酪農・肉用牛農家を対象に経営支援を行っています。牛以外にも牛舎環境や牧草など学ぶことも多いですが、先輩や農家さんに教えてもらいながら、頼ってもらえる普及員を目指して頑張っています。



かさい ゆうき

### 体が資本！ながいもの調査 園芸班：葛西 雄基

園芸班では、7月から11月の5ヶ月間、十和田市、七戸町、東北町のながいもの調査を行っています。掘り取り調査では芋掘りスコップと根性で、ながいもを傷つけないように掘り起こします。

今年は夏期の高温のため特にながいもが細長く、掘る過程で折ることが多かったため、来年度はながいもを無傷で掘り起こせるようにしたいです。



# 令和5年度の農業普及振興室の主な活動の報告

## 三沢4Hクラブ員による地域貢献活動

三沢4Hクラブでは、クラブ員各々の畑で栽培した「かぼちゃ」をハロウィンの時期にあわせ、児童館等に贈る活動を毎年行っています。  
今年記録的な猛暑のため栽培管理が難しい年でしたが、収穫したかぼちゃを持ち寄り、選果し、タオルで磨いて、最終的にかぼちゃを200個以上準備しました。  
クラブの代表者が三沢市内の「いちい幼稚園」及び「織笠児童館」へかぼちゃを贈呈しました。「いちい幼稚園」では園児に直接かぼちゃを渡すことができ、園児達もとても喜んでくれました。  
農業普及振興室では4Hクラブ員の農業技術及び経営の向上支援はもとより、地域貢献活動を通じて地域リーダーを育成していきます。



4Hクラブ員によるハロウィン用かぼちゃの準備



ハロウィン用かぼちゃを手にするいちい幼稚園の園児たち

## 第5回ながいも早掘りNo.1決定戦開催！

JA十和田おいらせでは、ながいものPRと手掘りの技術継承を目的に、「ながいも早掘りNo.1決定戦」を4年ぶりに開催しました。決定戦は、団体戦（農家部門・一般部門）と個人戦が行われ、制限時間内にいかに早くきれいなながいもを掘り取るかを競いました。  
農業普及振興室は、掘り取ったながいもの測定などの審査を担当したほか、団体戦に出場しました。参加者は掘った穴に体をねじ込ませながら、地下1メートルのながいもを全力で掘り起こしていました。また、同じ畑で「親子ながいも掘り取り体験」も行われ、泥だらけになって収穫の喜びを味わいました。



団体戦一般部門に出場したチーム上北普及



団体戦農家部門で優勝したチーム野菜研

## 持続可能な集落営農の体制づくり

集落営農組織の活性化に向け、地域の集落営農組織と関係機関から構成される上北地域集落営農活性化協議会を設置し、先進事例調査や集落営農活性化セミナーの開催や、組織間連携に向けた効率的な運営体制について検討しました。  
また、高収益作物の導入による収益向上の取組や集落内のコミュニティビジネスの取組など、集落営農組織の収益性改善に向けた新たなチャレンジモデルの実証を支援するとともに、集落営農組織の新たなオペレーター確保のため、農業用ドローンオペレーター育成講習会を開催し、担い手の育成に取り組んでいます。



農業用ドローンオペレーター育成講習会

## 経営体ごとの技術改善による転作大豆の生産性向上

転作大豆の安定生産を目指し、令和3年度から経営体ごとの減収要因を明らかにする「大豆栽培技術改善策整理票」の作成と実施を支援しており、令和5年度は12経営体が技術改善に取り組みました。資材の見直しや、雑草に合わせた除草剤の選択、病害虫防除体系の見直し等を行った結果、生産費の削減や汚損・病害虫被害粒の減少により生産性の向上が図られました。  
今後も転作大豆の収量向上による生産者所得の確保と県産大豆の高品質安定生産に取り組んでいきます。



生育不良ほ場での現地指導

## 農福連携の取組拡大に向けて

農福連携は、農業分野と福祉分野が連携し、障がい者等が農作業に関わることで、農業分野における新たな働き手の確保と、障がい者等の就労機会や生きがいづくりの場の提供が期待される取組です。  
今年度は3農協で、農協組合員と福祉事業所をマッチングさせる「チャレンジ農福」を10件実施しました。12月6日には現地検討会を開催し、実際に障がい者がごぼうの袋詰作業をしているところを見学しました。また、意見交換では、農福連携を始めるまでの流れについて紹介しました。



障がい者によるごぼうの袋詰作業を見学

※当室では、農福連携の周知拡大とマッチング促進のため「かみきた農福連携ホームページ」を開設しています！

